

# 第19回日本脳循環代謝学会総会 ランチオンセミナー4

**開催日時** 平成19年10月26日(金) 12:00 ~ 13:00

**開催場所** ホテルメトロポリタン盛岡 New Wing B会場(メトロポリタンホール東4F)  
〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通1番44号

**座長** 片山 容一 先生 日本大学医学部 脳神経外科学講座



## 演題・演者

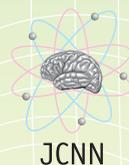
### CEA後過灌流症候群の病態生理、予知、診断、対策について

細田 弘吉 先生 神戸大学大学院医学系研究科・脳神経外科学分野

### CEA周術期リスク評価におけるSPECTの有用性

井上 亨 先生 独立行政法人国立病院機構九州医療センター 脳神経外科

共催: 第19回日本脳循環代謝学会総会  
日本脳神経核医学研究会  
富士フイルムRIファーマ株式会社



**FUJIFILM**  
富士フイルムRIファーマ株式会社

# 第19回日本脳循環代謝学会総会 ランチセミナー4

開催日時:  
平成19年10月26日(金) 12:00~13:00

開催場所:  
ホテルメトロポリタン盛岡 New Wing B会場  
(メトロポリタンホール東4F)

座長 片山 容一 先生 日本大学医学部 脳神経外科学講座

## CEA後過灌流症候群の病態生理、予知、診断、対策について

演者 細田 弘吉 先生 神戸大学大学院医学系研究科 脳神経外科学分野

頸動脈狭窄症に対する頸動脈内膜剥離術(CEA)の有効性は多くの臨床試験により既に確立されている。CEAに伴う合併症として従来は、もっぱら、塞栓、閉塞などによる脳虚血が問題とされてきたが、近年、過灌流症候群が重要な合併症として注目されている。本症は、脳代謝需要を超える脳血流の異常な増加、すなわち、過灌流により頭痛、痙攣、脳内出血(古典的三主徴)などの症状が生じるものである。この中でも脳内出血は頻度こそ約1%と少ないものの死亡率は50%を超えると報告されている恐るべき合併症であり、その原因と推定される過灌流が注目される由縁である。本症候群については、近年、様々な知見が次第に明らかになりつつあり、また、carotid stent後でも発生することも判明している。慢性脳虚血による脳血管自動調節能の障害が本症候群の病態生理の根底にあるのは衆目の一致するところであり、脳内出血は認められないもののvasogenic edemaが生じている症例も報告されている。さらに、内皮障害が関わっている可能性を示唆する報告もある。また、一方で、過灌流症候群ではなく再灌流症候群と呼ぶべきという報告もなされている。その診断方法もSPECT、PET、TCD、頸動脈血流量など様々な手法が使われ、過灌流の予測もある程度可能となってきている。治療としては厳密な血圧コントロールが基本であるが、予防としてfree radical scavengerの投与を勧める報告もなされている。今回の発表では、本症候群に関するこれまでの知見を、病態生理、予測、診断などを中心に自験例および文献をもとに報告する予定である。

## CEA周術期リスク評価におけるSPECTの有用性

演者 井上 亨 先生 独立行政法人国立病院機構九州医療センター 脳神経外科

過灌流症候群はCEA後の重篤な合併症として知られている。頭痛、痙攣、一過性局所脳神経症候、頭蓋内出血などを主徴とし、過去の報告では、その発症頻度は比較的低いが、頭蓋内出血合併症においては高い死亡率を呈する。著明な脳循環不全により脳血管反応性が低下した状態では、脳血管の自動調節能は障害されていると推察され、CEA後の血流増加が大きいと調節不能となり、著明な脳浮腫そして過灌流症候群を呈すると考えられる。

したがって、CEA前後には脳循環動態を繰り返し観察することが求められる。SPECTやPETなどの核医学検査では、直接脳血流(CBF: cerebral blood flow)の測定とacetazolamide負荷により脳血管反応性の測定が可能である。術前の脳血流SPECT検査でのacetazolamide反応性の低下は、CEA後過灌流の予知因子として非常に重要な所見である。また、安静時においても脳血流が低下している場合は、さらに危険性が高いと考え、慎重な経過観察と治療を行うべきである。

## About JCNN 日本脳神経核医学研究会について

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科などで実際の診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っていきます。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていききたいと考えています。この趣旨にご賛同いただき、脳核医学の発展のために、是非本研究会にご参加下さい。

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル18F 日本コンベンションサービス株式会社内

Tel:03-3508-1214 Fax:03-3508-1302 E-mail:infojcnn@convention.co.jp



JCNN